

手術等による口腔内の変化 今後の治療によって口の中に変化が出てくる場合が(あります・ありません)。 手術:

口の欠損部分(歯の並び・顎の骨・粘膜やその周囲・その他)

(顎のずれ・口が開かない・咀嚼しにくい・嚥下しにくい・義歯があわない)

治療施設により管理方法が異なること、また個人の治療経過に差が出ます。

放射線·化学療法·化学放射線療法:

10 日以降

(口内炎・口の乾燥・味覚の異常・カビ/ウィルスの感染・顎の感染や壊死・多数のう歯・口が開かない)

注意:この経過表はあくまでも標準的な治療経過とケアの進むタイミングを示したものです。病気の種類、治療方法、

入院中	の口腔管理につい	ハて 入院中	手術(口前	• □後)	()は選択、□は✔を入れる
	予定日・実施日)	年	月	日 周術期	専門的口腔衛生処置実施(あり・なし)
	の状態の評価				П х н
	の衛生状態	□良好	□やや不良		□不良 *> □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	・歯肉の状態	□良好		C2以上·歯石等	
		□乾燥なし	□やや乾燥		□乾燥強い
日	か実施内容や指 口の中は衛生的は ださい・□次の	に(□保たれて)	ハます・□保たね 要です)。	1ていません)。 	ケアは(□これまで通りおこなってく
		は常はありません な注意が必要で		ます)ので、ケン	アは(口これまで通りおこなってくださ
					ります)。 むせること(□はないと思いりおこなってください・□次のような注
その	他の必要な口腔を	ケア指導内容			
指導時	持間(:	\sim	:)	担当歯科衛	